



池の子通信

～あいさつで笑顔あふれる みんな仲よし池田小～

かしこく なかよく げんきよく
あいさつ へんじ せいりせいとん

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果

1 はじめに

本年度の調査は4月19日（火）に実施され、本校の6年生も参加しました。

2 調査の概要

(1) 教科に関する調査

国語、算数及び理科です。理科は平成24年度からおおむね3年に一度実施しています。また、今年度も知識と活用（応用）を一体的に問う問題になっています。

(2) 質問紙による調査

学習への意欲、学習の方法、学習環境、生活の様子等、子どもたちの学習や生活・意欲に関する質問紙による調査です。今回は、理科の授業に関する質問もありました。

3 教科における本校の状況

【国語】

◎全体的に平均正答率は、全国及び県平均を上回りました。（○：よかったところ △：課題のあるところ）

○特に全国平均を上回ったのが「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題でした。

○本調査は問題に対して「選択」「短答」「記述」の3パターンで回答しますが、本校では特に「記述」による回答が全国平均を大きく上回りました。

△「登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉える」問題が県平均を若干下回りました。

【算数】

◎全体的に平均正答率は、全国及び県平均とほぼ同等でした。

○特に全国平均を上回ったのが「示された図形の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる」「二つの数の最小公倍数を求めることができる」問題でした。

○図形を構成する要素に着目したプログラムに関する問題については全国・県平均を大きく上回りました。

△「加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、他の場合のポイント数の求め方と答えを記述できる」「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」問題が県平均を若干下回りました。

【理科】

◎全体的に平均正答率は、全国平均とほぼ同等で県平均は上回りました。

○特に全国平均を上回ったのが「メスシリンダーという器具を理解している」「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」問題でした。

○基礎的・基本的な知識・技能については全国及び県平均を大きく上回りました。

△「問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」「提示された情報を、複数の視点で分析して解釈し、自分の考えをもつことができる」問題が県平均を若干下回りました。

4 教科における主な改善点

【国語】

*登場人物の行動や気持ちを捉えることが必要となる言語活動を設定し、物語全体を通して、複数の叙述を基に行動や気持ちを捉えることができるように指導していきます。

*取り上げた叙述から考えられることをノートやワークシートにまとめたり、考えたことを交流したりすることで、物語の全体像を明確にするように指導していきます

*当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導していきます。

【算数】

- *日常生活の問題を解決するために、問題場面の数量の關係に着目し、簡潔に式で表すとともに、式を読み取ったり、計算の順序についてのきまりに従って正しく計算したりできるよう指導していきます。
- *問題場面から、基準量、比較量、割合の關係を捉えるため、言葉の式だけでなく、自分にとって分かりやすい図をかくて式を立てることができるよう指導していきます。
- *図形の意味や性質を基に、筋道を立てて作図の手順を考えることができるよう指導していきます。

【理科】

- *問題を解決するまでの道筋を構想し、解決の方法を発想できるようにするため、自分の予想や仮説だけでなく、他者の予想や仮説についても把握するよう指導していきます。
- *知識をより深く理解できるようにするため、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにするとともに、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるよう指導していきます。
- *目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることができるよう指導していきます。

5 質問紙調査の主な特徴

〈学校生活〉

- 「人が困っているときは進んで助ける」「いじめはどんな理由があってもいけない」についての回答が全国・県平均を上回っており、規範意識が強く、みんなが『なかよく』することの大切さを意識し、素直でまじめに物事に取り組む本校の子どもたちの様子がうかがえました。
- ICT機器の使用について「授業中に調べる場面」「友達と意見を交換する場面」「自分の考えをまとめ発表する場面」で使用する割合が全国・県平均を大きく上回っており、子どもたちの学習用具の一つとして定着してきている様子がうかがえました。
- 「国語・算数・理科の勉強は大切」「国語・算数・理科の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つ」と回答した児童も多く、日々の授業に真剣に取り組んでいる様子がうかがえました。

〈家庭生活〉

- 平日の家庭学習の時間は「1時間以上2時間未満」と回答した児童が一番多く、全国平均を上回りました。また、「2時間以上3時間未満」と回答した児童も多く、全国・県平均を大きく上回りました。家庭学習が定着し、その成果が現れている様子がうかがえました。
- 「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時間に寝ている・起きている」についての回答も全国・県平均を上回り、規則正しい生活をしていることがうかがえました。
- 「新聞を読んでいますか」「読書は好きですか」という質問に対しても、肯定的に回答する児童が全国・県と比較して高い割合でした。
- △「ゲームをしている時間」「SNSや動画を視聴する時間」は、いずれも「1時間以上2時間未満」と回答した児童が一番多く、全国・県と比較して多い割合でした。

6 質問紙調査からの改善点

- *基本的な生活習慣は概ね良好でした。改善を要する状況については、家庭と連携してより良い生活が送れるように粘り強く取り組んでいきます。
- *ゲームの時間については、家庭学習の時間とも関連させ、さらに西中学校区の小中連携教育も踏まえる中で家庭と更に連携を図り指導をしていきます。

7 今後の取組

- ◎全校体制として、まずは子どもたちが動き出したいくなるような「課題」を設定し、その解決のための「見通し」をもち、子どもとの対話や話し合い活動などを効果的に取り入れて主体的に参加できる授業を展開します。そして最後には「見通し」に対応する「振り返り」ができる授業を一層推進していきます。（これが県教委が勧める「やまなしスタンダード」、市教委が勧める「甲府スタイル」の授業です）
- ◎児童一人一人の居場所を大切に、自己有用感を育て、心豊かな児童の育成に努めていきます。
- ◎宿題、自主学習など、各学年の課題に応じた内容で、日々の授業の振り返りや、高学年では予習もできるように、今後も家庭と連携して取り組んでいきます。ご協力をよろしくお願いいたします。
- ◆本調査に参加した6年生には、個別懇談の時に、個人票を基に具体的に課題等についてお話をさせていただきます。

